

「ごめんなさい」に乗せる気持ち

雲南市立木次中学校 1年 藤原由惟

私は「ごめんなさい。」を言うのも、言われるのも苦手です。相手に悪いことをしたら、「申し訳ないな。」と思い、ちゃんと謝ることはできるけど「許してもらえるかな？」と不安になってしまうと、「ごめんなさい。」を言い出しにくくなることがあります。反対に「ごめんね。」と言われても、相手が反省しているように思えないと、ちゃんと謝ってくれないのに、許さないといけない雰囲気になるのが嫌なので、私は「ごめんなさい。」が苦手なのです。

あれは幼稚園の年長の時。いつものように友達と遊んでいた私は、突然年下の子に突き飛ばされて机にぶつかり、大泣きをしました。先生もびっくりして「大丈夫？」と声をかけてくれたのですが、涙が止まりませんでした。その後先生が相手の子を連れてきて、「ごめんねって言っているから許してあげてね。」と言われました。でもその子から直接「ごめんね。」を聞いていないし、「僕は悪くない。わざとじゃない。」と先生から逃げようとしているその子が、悪いと思っているようには全然見えなくて、私は「いいよ。」と言えませんでした。そのうち先生もイライラしたのか、「ほら、謝っているんだから、いいよって言ってあげるだわ。」と私に言ってきて、それでも黙っていたら「意地悪だね。そんな子にはもう謝らなくていいわ。」と相手の子に言ったのです。

私はとても傷つきました。うまく言葉にできなかったけど、悪いと思っていないのに、「ごめんね。」と言われても、すぐに気持ちの整理がつけられるはずがないのです。それからずっと私は、「ごめんなさい。」が苦手です。

そもそも相手を許すか許さないかを決めるのは自分自身だし、許すこと強要されるのはおかしいと思います。「ごめんなさい。」「いいよ。」が一つのパターンとなっていて、傷つけてしまった相手の心に、ちゃんと向き合おうと思う気持ちが薄れているのではないのでしょうか。

ニュースや新聞でいじめ問題をよく見ます。報道で注目されているいじめだけが発生しているのではなく、どこの学校でも起こりうるし、誰もが被害者にも加害者にもなりうるのです。学校のいじめでも、謝罪をしたら解決したとされて、その「ごめんなさい。」に反省の気持ちがあるかどうかは問題ではないのかもしれない。たとえば、「そんなつもりはなかった。」「わざとじゃなかった。」「ふざけていただけ。」と言い訳したとしても、「ごめんなさい。」と謝罪をして、それを許すように強要されて、「いいよ。」と言えれば解決したことになってしまうのです。

私たちは小さい頃から「ごめんなさい。」と「いいよ。」を一セットにして教えられてきました。でもそれは自分で考える、決める、思いを相手に伝えるという能力を身につける妨げになっているように思います。私のように謝るという行為だけで

なく、謝るまでの過程や意味をちゃんと教わるべきなのではないでしょうか。

私は今、反抗期の真っ只中です。ちょっとしたことでイライラスイッチが入って、自分でもコントロールできなくなる時があります。ついこの間も、まだ六歳の妹に思いっきりイライラをぶつけてしまいました。「ごめんね。」とそっけなく言った私に、妹は「ねね(姉)の邪魔をしてごめんね。」と言ったのです。私は心の底から申し訳ない気持ちになりました。私みたいなのとあえず言った「ごめんね。」ではない、私の心を気遣ってくれた「ごめんね。」を聞いて、私はとても恥ずかしくなりました。

幼稚園の時「意地悪ね。」と言われたことに私はずっと囚われて、「ごめんなさい。」に気持ちを乗せることができなくなっていたけど、相手に「悪いことしたな。」と思ったら、ただ真っ直ぐにその気持ちを伝えればいいのだと教えられました。

これからは、自分の心に素直になって、言葉と心がつながった「ごめんね。」を言えると、今の私は自信を持って言えます。